

奥穂山行

日時:2010/07/17-18

メンバー:小倉,犬塚

行程:

07/17

風穴の里 5:50-沢渡 6:10-上高地 7:00-岳沢 9:00,9:15-紀美小平 11:25,11:50-奥穂高岳 13:30-穂高岳山荘 14:00

07/18

穂高岳山荘 3:50-奥穂高岳 4:25,4:50-穂高岳山荘 5:20,6:30-涸沢ヒュッテ 8:00-横尾山荘 11:00-上高地 13:00-沢渡 14:00

07/16(Fri)

ジャンダルム... 布団に入っても興奮しているのが分かる。ということはつまり、...車中泊! PM11:35(いい山行)出発。上田の西友で買い出しし、眠気眼をこすりながら道の駅風穴の里到着 25:30。おやすみなさい。

07/17(Sat)

起床。悪くない空だ! 小倉さんと合流し、沢渡を目指す。沢渡でタクシーに乗り合ってくれる方を探す。開始早々5分、1組目であいのりメンバーゲット。ささっと上高地。あいのりメンバーは槍に行くとのこと。お気をつけて!



GW 以来の岳沢は何だか懐かしい。また坂本さんと登りたいなあなんて思いながら、高度を上げる。まあまあ悪くないペースで岳沢ヒュッテ到着。こじんまりとしているけど、雰囲気のある小屋がほぼ完成していた。



7/23 から営業するらしい。岳沢ヒュッテで水を 3L 補給し、重太郎新道を登る。9:30、西穂にガスがかかり始める。10:00、重太郎新道にもガスの魔の手が...。こりゃ 13:00 雨コースかなと感じた。小倉さんの太ももが悲鳴を上げているらしく、時折辛そうに立ち止まっている。そんな状況でも思ったよりも早く紀美子平到着。GW に前穂の頂上に立っていたし、ガスっていたので、前穂までのピストンはスルー。小倉さんも遠慮した。紀美子平でいろんな話をしながらゆっくり過ごす。天気のことにも気になるので、穂高岳山荘に向け出発。12:50、大粒の雨が勢いよく降り始める。自分的天気予報もなかなかだと思っていた内に結構濡れた。レインを着込む。蒸し暑い。雨は強弱を繰り返しながら、時折雷も鳴っている。こうなりゃ穂高岳山荘に駆け込むまでだと決め込み、小倉さんとの間隔を広げて先を急ぐ。穂高岳山荘に到着したときには雨も小康状態だったので、その際にテントを張る。テントの受付(600 円/人)がてら山荘内で休憩。なおも雨は強弱を繰り返していた。タイミングを見計らい、テントに戻り、宴開始。お互いあまり飲んではいなかったが、いい具合に酔っぱらう。



お互いやや笑い上戸になっていた。ご飯を炊く。焦げの匂いがしないからずっと火にしていたのだが、痺れを切らし、蓋を開けてみると炊けてるじゃん！



...しかーし、底はご飯せんべいが完成していた。ご飯せんべいは僕のアゴを砕いた... おかずはマーボーナスだったが、ご飯せんべいと眠気が手伝って、あまり箸が進まない。19:30 消灯。いつの間にか雨は上がっていた。

07/18(Sun)

3:15 起床。穏やかな朝だ。空は満天の星空で流れ星を一個ゲットする。小倉さんを奥穂ピストンに誘うと、小倉さんも行くとの返事を得る。ヘッドラの灯りを頼りに奥穂を目指す。本当に穏やかな朝だった。のんびり登って奥穂の頂上に立つ。朝日はまだ上がっていなかった。続々と人が登って来る。外国人も登って来たので、話しかけたらカナダ

人だった。



外国人フェチの僕は彼らと記念写真を撮った。そうこうしている内に朝日が上がる。



僕は朝日より朝日に照らされ、赤く燃える山肌の方が好きだ。



一日の中で最も大地にエネルギーがあるように見えるからだ。そんな大地に立っていると自分にもエネルギーが充填されていくのが分かる。



しかし、残念だが、今回のジャングルム越えは諦めることとし、その勇姿をしっかりと目に焼き付けた。テントに戻り、お片付け。隣のテントの若人も出発の準備をしていた。若人たちはいい表情をしていた。いいぞ、若人。なんだか嬉しくなって、岳沢の水 2L、ダカラ 0.5L、つまみやらを彼らに上げる。よくよく話をすると信大の山岳部とのことだった。



彼らとも記念写真を撮る。彼らとはまたどこかで会いたいものである。ゆっくり準備をして、涸沢に向けて出発。



北尾根、美しす。



涸沢への道は猿山のような道だった。涸沢を過ぎると外国人が多くなって来る。ニュージー、ドイツ、フランス、オーストラリア、... 外国人好きの僕にとっては天国だった。Where are you from?(どこから来たの?) の発音はかなり完璧になったに違いない... 横尾からの砂利道を越え、上高地到着。タクシー乗り場に行けば、あいのりしたい方々があり、同乗。沢渡を経て、風穴の里で解散。

今回の山行ではジャングルム越えを果たすことはできなかった。まあ、よかろう。山は逃げない。ジャングルム越えを想像しながら、過ごす日々も悪くない...